

妙光寺めうくわうじは鳴瀧なるたきの里の北にあり。初は内大臣藤師繼ないだいじんふちのもろつぐの長男右少将忠年うせうしやうたゝとし〔幼名妙光〕追福のため、北山の別業を寺となし、妙光禅寺せんじと号す。開基は法燈国師はふとうこくしなり。本尊は釈迦仏しゃかぶつを安ず、宝陀閣ほうたかくの額は木庵和尚もんあんおしやうの筆なり。紫金台しこんだいの旧地はうしろの山上に遺る、印金堂いんきんだうは堂内の四方惣印金しほうそういんきんを押で、当所の壯観こゝにとゞまる。